

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

## I. 調査要領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成21年10月19日

(2) 調査対象期間 平成21年7月～9月期実績および平成21年10月～12月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

### 3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	20社	66.7%
建設業	30社	25社	83.3%
卸売業	30社	24社	80.0%
小売業	35社	23社	65.7%
サービス業	25社	17社	68.0%
合計	150社	109社	72.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## II . 概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

平成21年度第II四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」16.7、「悪化企業」53.7、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△37.0となっており、前年同期比(△39.6)との比較では2.6ポイント好転傾向を示しました。また、前期調査<21年度第I四半期>と比較してみると前回△40.6→今回△37.0と3.6ポイント好転を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△50.0、建設業D・I値△24.0、卸売業D・I値△29.1、小売業D・I値△27.3、サービス業D・I値△64.6となっており、前年同期調査と比較すると卸売業で2.1、製造業で14.0ポイント、さらにサービス業では33.4ポイントの悪化が見られました。一方、小売業では6.1ポイント、建設業では40.2ポイント好転となっています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」14.7%「悪化企業」53.2%でD・I値△38.5と、前年同期見通し(△58.3)に比べ19.8ポイント改善していますが、DI値は未だマイナスであり、回復の兆しが伺えるものの予断を許さない来期見通しとなっております。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

##### 生 産 高

前年比で「増加企業」5.0%、「減少企業」70.0%、D・I値△65.0と前年同期に比べ25.0ポイントの大幅な悪化を示しています。なお、前期調査との比較でも33.1ポイントと大幅な悪化を示しています。

##### 採 算

前年比で「好転企業」15.0%、「悪化企業」45.0%、D・I値△30.0と前年同期に比べ10.0ポイントの好転、前期調査との比較でも15.4ポイントの好転を示しています。

##### 来期見通し

業況D・I値△50.0、生産高D・I値△40.0、資金繰りD・I値△20.0と、前年同期に比べ全てのD・I値で好転傾向を示し、特に資金繰りD・I値では32.0改善と高い数値を示しております。前期調査の数値との比較では資金繰りで25.5ポイントの好転が見られますが、他はほぼ横ばいで推移しています。

#### 2) 建 設 業

##### 完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」24.0%、「減少企業」48.0%、D・I値△24.0と前年同期に比べ40.2ポイントの大幅な好転傾向、前期調査との比較でも18.8ポイントの好転傾向を示しています。

##### 採 算

前年比で「好転企業」4.0%、「悪化企業」52.0%、D・I値△48.0前年同期に比べて19.9ポイントの好転傾向、前期調査との比較でも19.8ポイントの好転傾向を示しています。

##### 来期見通し

業況D・I値△52.0、完成工事高D・I値△52.0、資金繰りD・I値△44.0と前年同期と比べ全て好転傾向を示していますが、いまだ数値は高く厳しい見通しとなっています。

#### 3) 卸 売 業

##### 売 上 高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」58.3%、

D・I値△41.6と、前年同期と比べ26.3ポイントの大幅な悪化傾向を示し、前期調査との比較でも22.4ポイントの悪化となっており、大変厳しい状況となっております。

採 算

前年比で「好転企業」8.3%、「悪化企業」50.0%、D・I値△41.7と前年同期に比べ14.8ポイントの悪化傾向を示しています。また、前期調査との比較でも26.2ポイントの悪化傾向を示しております。

来期見通し

業況D・I値△29.2、売上高D・I値△29.1、資金繰りD・I値△12.5と前年同期に比べ全てのD・I値が好転傾向を示しています。前期調査との比較でも全ての数値が好転を示しており、改善の兆しの伺える来期見通しとなっております。

#### 4) 小 売 業

売 上 高

前年比で「増加企業」26.1%「減少企業」52.2%、D・I値△26.1と前年同期に比べ2.5ポイントと小幅ながら好転傾向を示しています。また、前期調査との比較でも11.4ポイントの好転傾向を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」17.4%「悪化企業」43.5%、D・I値△26.1と前年同期に比べ16.8ポイントの好転、前期調査との比較でも23.8ポイントの好転傾向を示しています。

来期見通し

業況D・I値△8.8、売上高D・I値△8.7、資金繰りD・I値△17.3と前年同期と比べ、全てのD・I値が大幅な好転傾向を示しています。特に業況・売上高D・I値が60ポイント以上好転傾向となっており、前期調査との比較でも全ての数値が好転傾向を示しています。

#### 5) サービス業

売 上 高

前年比で「増加企業」11.8%、「減少企業」76.4%、D・I値△64.6と前年同期に比べ39.6ポイント悪化傾向を示し、前期調査との比較でも14.6ポイントの悪化傾向を示しています。

採 算

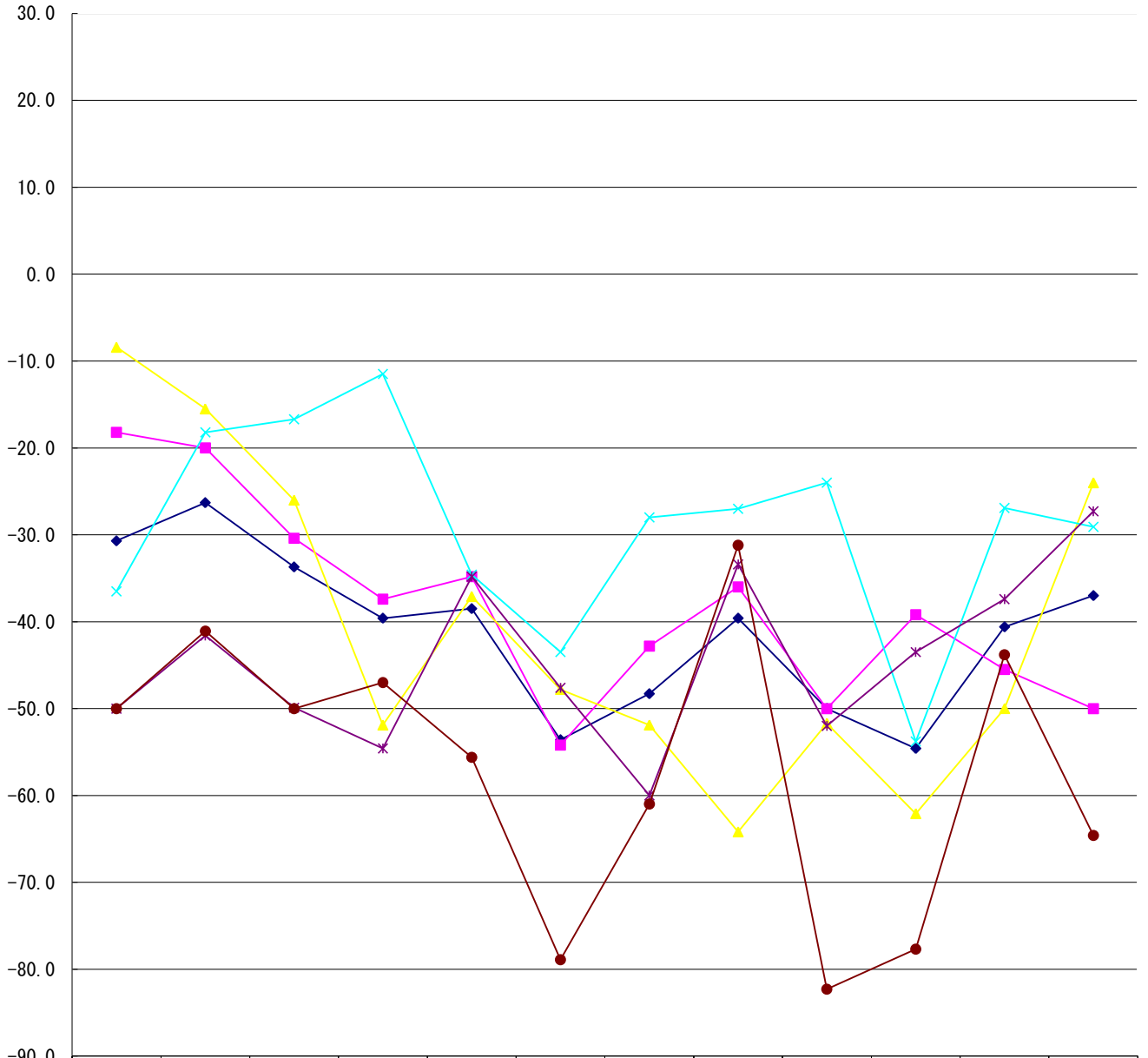
前年比で「好転企業」11.8%、「悪化企業」76.4%、D・I値△64.6と前年同期に比べ33.3ポイント悪化傾向を示し、前期調査との比較でも27.1ポイントの悪化傾向を示しています。

来期見通し

業況D・I値△58.8、売上高D・I値△58.8、資金繰りD・I値△35.3と前年同期に比べすべてが悪化傾向を示しています。一方、前期調査の比較では全ての来期見通しで好転傾向を示しています

## 業況（前年同期比）

◆ 全業種   
 ■ 製造業   
 ▲ 建設業   
 × 卸売業   
 ✱ 小売業   
 ● サービス業



	18.10~12 18年度 Ⅲ	19.1~3 18年度 Ⅳ	19.4~6 19年度 Ⅰ	19.7~9 19年度 Ⅱ	19.10~12 19年度 Ⅲ	20.1~3 19年度 Ⅳ	20.4~6 20年度 Ⅰ	20.7~9 20年度 Ⅱ	20.10~12 20年度 Ⅲ	21.1~3 20年度 Ⅳ	21.4~6 21年度 Ⅰ	21.7~9 21年度 Ⅱ
◆ 全業種	-30.7	-26.3	-33.7	-39.6	-38.5	-53.6	-48.3	-39.6	-50.0	-54.6	-40.6	-37.0
■ 製造業	-18.2	-20.0	-30.4	-37.4	-34.8	-54.2	-42.8	-36.0	-50.0	-39.2	-45.5	-50.0
▲ 建設業	-8.4	-15.5	-26.0	-51.9	-37.1	-47.8	-51.9	-64.2	-51.7	-62.1	-50.0	-24.0
×	-36.5	-18.2	-16.7	-11.5	-34.6	-43.5	-28.0	-27.0	-24.0	-53.8	-26.9	-29.1
✱ 小売業	-50.0	-41.6	-49.9	-54.6	-34.8	-47.6	-60.0	-33.4	-52.0	-43.5	-37.4	-27.3
● サービス業	-50.0	-41.1	-50.0	-47.0	-55.6	-78.9	-61.0	-31.2	-82.3	-77.7	-43.8	-64.6

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足
建 設 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	そ の 他
卸 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	売 掛 金 回 収 難	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 材 不 足	人 件 費 増
サービ業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足
合計	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

### ○前年同期比

前年同期と比較すると全体的に「得意先減少」が増加し、「同業者間の競合」が減少している。特に「得意先減少」増加については製造業を除く全ての業種での増加となっている。

なお前年同期調査時には「受取手形不渡」の増加傾向が見られたが、今回調査では全体を通し1件の回答のみに止まっている。

また、前期調査との比較では「人件費増」「人材不足」が増加し、「売掛金回収難」が減少している。

### ※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○若年者の教育資金がなく、技能承継が困難 (一般産業機械)

(建設) ○売上の減少、工事物件の激減 (板金)

(卸売) ○得意先の取引額減少 (一般鋼材)

○競合による粗利益不足 (石油製品)

○競合により、仕入原価上昇分を販売価格に転嫁できない (肥料)

(小売) ○補助事業等の減少や農業の戸数の減少等で、販売見通しが非常によくはない (農機具)

(サービス) ○激しい競争による低価格化 (貸店舗)

## 業況

重複回答を特記すると、サービス業のビジネスホテル（3社）が悪化。あとは重複しても2社となっている。

製造業 ⇒ 好転（重複該当なし、菓子）

悪化（重複該当なし、製材、印刷）

建設業 ⇒ 好転（重複該当なし、舗装・土木、とび・土木、建築・土木）

悪化（重複該当なし、板金、電気設備、土木一式、塗装、管工事、建築、内線工事）

卸売業 ⇒ 好転（建材、建築金物、玩具）

悪化（重複該当なし、衣料品、塗料）

小売業 ⇒ 好転（自動車、酒類、電化製品、）

悪化（重複該当なし、衣料品、農業機械、画材）

サービス業 ⇒ 好転（重複該当なし、IT）

悪化（ホテル（ビジネス）、クリーニング、貸店舗、建物清掃、理容、レンタカー）